

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
乳肉水産食品部会
議事次第

日時：平成24年2月24日（金）

14：00～17：00

場所：専用第18－20会議室

1. 開会

2. 議題

(1) 生食用牛レバーの取扱いについて

(2) その他

3. 閉会

<配布資料>

資料1：生食用牛レバーの取扱いについて

資料2：牛レバー内部における腸管出血性大腸菌等の汚染実態調査（概要）

資料3：牛レバー内部における腸管出血性大腸菌等の汚染実態調査（詳細版）

資料4：牛肝臓の大腸菌 0157 及びカンピロバクター汚染に関する調査成績
（農林水産省提出資料）

資料5：肝臓における腸管出血性大腸菌の胆嚢及び胆管からの逆行性汚染に関する試験
（関係業界団体提出資料）

資料6：生食・生レバーを衛生的に提供することについて
（全国食肉事業協同組合連合会提出資料）

資料7：レバーの生食に関する業界参考人としての質問・意見
（（社）日本畜産副産物協会提出資料）

<参考資料>（※ 委員のみ配布）

参考資料1-1：生食用牛レバーの取扱いについて（案）（平成23年7月6日食中毒・乳肉水産食品合同部会資料6）

参考資料1-2：生食用牛レバーの取扱いについて（平成23年7月6日食安発0706第1号）

参考資料1-3：生食用牛レバーの取扱いについて（平成23年12月20日乳肉水産食品部会資料1）

参考資料1-4：生食用牛レバーの取扱いについて（平成23年12月20日食安発1220第1号）

参考資料2：同一個体における糞便と肝臓内部等の腸管出血性大腸菌等汚染の関係について

参考資料3※：Berg, RD. 1995. Bacterial translocation from the gastrointestinal tract. Trends in Microbiology, 150 Vol 3(4) April:149-154.

参考資料4※：品川邦汎. 牛の内臓肉（肝臓）の汚染とその防止. 獣医畜産新報. Vol60 No.11 2007.

参考資料5※：肝臓、肝臓の構造と胆嚢（新編 家畜比較解剖図説－上巻－（抜粋））

参考資料6：牛レバー等による食中毒報告事例（平成23年）

参考資料7-1：ご注意ください！お肉の生食・加熱不足による食中毒（政府広報オンライン）

参考資料7-2：牛レバーの生食について（厚生労働省ホームページ）

参考資料8※：平成23年12月20日乳肉水産食品部会参考資料6と同一

1. 松本紀子、谷脇妙、絹田美苗、千屋誠造. 牛胆汁中における病原微生物汚染状況について. 高知衛研報 51, 2005, p. 33-36.
2. 松本紀子、谷脇妙、絹田美苗、千屋誠造. 食由来病原微生物の環境モニタリング. 高知衛研報 52, 2006, p. 25-33.
3. 松本紀子、谷脇妙、絹田美苗、千屋誠造. 牛の胆汁及び肝臓中から分離された

カンピロバクター並びに志賀毒素産生性大腸菌の血清型について. 高知衛研報 53, 2007, p. 37-40.

4. 宮崎憲明、梅原芳彦、渡部富廣、上田成一、白井玄爾. 生食用肉のサルモネラ及び病原大腸菌汚染調査. 長崎県衛生公害研究所報 40, 1994, p. 68-72.
5. 筒井里華、対馬典子、大友良光. 食品の食中毒菌汚染実態調査. 青森県環境保健センター研究報告, 2000, p. 52-54.
6. 久門勝利、内村眞佐子、依田清江、岸田一則、横山栄二、小岩井健司. 市販食品(生食用野菜および食肉)の細菌汚染実態調査-1998年度. 千葉衛研報告 23号, 1999, p. 15-19.
7. 熊谷学、齋藤幸一、菅原善弘、佐藤卓、田頭滋、小林良雄. 岩手県の志賀毒素産生性大腸菌について(3). 岩手衛研年報 42, 1999, p. 13-16.
8. 久門勝利、内村眞佐子、依田清江、横山栄二、小岩井健司. 市販食品(生食用野菜、食肉、イカ乾製品および加工食品)の細菌汚染実態調査-1999年度. 千葉衛研報告 24号, 2000, p. 31-34.
9. 北瀬照代、石井栄次. 市販の牛内臓肉の腸管出血性大腸菌 0157 汚染状況について. 大阪市立環科研報告 平成 16 年度 第 67 集, 2005, p. 15-19.
10. 江藤良樹、市原祥子、村上光一、濱崎光宏、竹中重幸、堀川和美. 平成 19 年度食品の食中毒菌汚染実態調査. 福岡県保健環境研究所年報 第 35 号, 2008, p. 108-110.
11. 江藤良樹、市原祥子、村上光一、濱崎光宏、竹中重幸、堀川和美. 平成 20 年度食品の食中毒菌汚染実態調査. 福岡県保健環境研究所年報 第 36 号, 2009, p. 107-109.
12. H. ASAKURA, E. SAITO, Y. MOMOSE, T. EKAWA, M. SAWADA, et. al. Prevalence and growth kinetics of Shiga toxin-producing *Escherichia coli* (STEC) in bovine offal products in Japan. *Epidemiol. Infect.*, 2011, p. 1-10.

参考資料 9 ※ : 平成 23 年 12 月 20 日乳肉水産食品部会参考資料 7 と同一

1. Reinstein, S. et al. 2007. Prevalence of *Escherichia coli* 0157:H7 in Gallbladders of Beef Cattle. *Applied and Environmental Microbiology* 73(3) : 1002-1004.
2. Jeong, KC. et al. 2007. Isolation of *Escherichia coli* 0157:H7 from the gall bladder of inoculated and naturally-infected cattle. *Veterinary Microbiology* 119(2007) : 339-345.

参考資料 10 ※ : Stotland, EI. et al. 2001. Bacterial microflora of normal and telangiectatic livers in cattle. *JAVMA*(219)1:36-39.

薬事・食品衛生審議会 乳肉水産食品部会

(委員)

No	氏名	現職
1	阿南 久	全国消費者団体連絡会事務局長
2	石田 裕美	女子栄養大学実践栄養学科長・教授
3	甲斐 明美	東京都健康安全研究センター微生物部長
4	木村 凡	東京海洋大学食品生産科学科教授
5	小西 良子	国立医薬品食品衛生研究所衛生微生物部長
6	鈴木 敏之	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所水産物応用開発研究センター衛生管理グループ長
7	寺嶋 淳	国立感染症研究所細菌第一部第一室長
8	中村 政幸	財団法人畜産生物科学安全研究所参与
9	西淵 光昭	京都大学東南アジア研究所教授
10	野田 衛	国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第四室長
11	林谷 秀樹	東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門准教授
12	堀江 正一	大妻女子大学家政学部食物学科教授
13	松田 幹	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
14	山下 倫明	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所水産物応用開発研究センター安全性評価グループ長
◎ 15	山本 茂貴	国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長

◎は部会長

(参考人)

No	氏名	現職
1	品川 邦汎	岩手大学農学部特任教授
2	小林 喜一	全国食肉事業協同組合連合会 専務理事
3	野田 富雄	(社)日本畜産副産物協会 専務理事
4	局 博一	東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻比較病態生理学教室 教授

(関係省庁)

No	氏名	現職
1	佐々木 貴正	農林水産省 消費・安全局 消費・安全政策課 リスク管理専門官